2月号パラ・パワーニュース

報告:特定非営利活動法人日本パラ・

パワーリフティング連盟、事務局

問合先 : ファックス 03-6229-5420

電話 : 03-6229-5423 吉田、久保

メール : jppf.jimu@gmail.com

ホームページ : http://www.phouse.jp/

■ 朝日スポーツ賞

本年度の朝日スポーツ賞に、レスリングの伊調馨選手と共に、パラリンピックサポートセンターが選ばれた。パラ・パワーリフティングのような小さな障がい者スポーツ団体に、共同オフィスを提供して下さり、様々な「出会い」の機会を与えていただいている。

お世話になっているパラサポの活動が社会的に認められたことは、本当にうれしい事だ。



■ スーパーヒューマン

イギリスのチャンネル4が製作したSuper Human というリオパラリンピックのプロモーションビデオを見られたことがあるだろうか。

「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」

これは、イギリスのストークマンデビル病院で、ルートヴィッヒ・グッドマン博士が、第二次世界大戦の戦闘で障害を持つことになった傷痍軍人たちに繰り返し伝えた言葉だという。博士は、リハビリにはスポーツが最適だと考え、入院患者を対象にアーチェリーなどのスポーツ競技会を開催したそうだ。そして、1960年ローマオリンピックの開催に合わせて国際ストーク・マンデビル車椅子競技大会を開催し、これが、第一回パラリンピックとされているという。

件のビデオは、「あなたにはそれは、無理です。」という言葉に対して、「Yes I can」と、手がなければ足でドラムをたたく、足が不自由なら車椅子で広い世界に飛び出す、片足しかなければ片足で走り高跳びをする、目が見えなくても、ゴールボールという鈴の入ったボールを使って競技をする。などなどグッドマン博士の言葉どおり、「残された機能」を生かして、障害を持った人々が生き生きとして様々なことに挑戦しているビデオだ。

東京パラリンピックの教育の一環ということで、パラリンピック体験教室を東京都内の小学校六箇所で開催した。 どうしたら、小学校の生徒さん達が障害者に関心を向け、更に、障害者スポーツに興味を持ってくれるだろうか、 と、考えた末、このスーパーヒューマンビデオを最初に見せ、パワーリフティングの世界チャンピオンの試技をみ せ、そして目の前で、日本のトップのパラ・パワーリフティング選手のパフォーマンスを見せる。その後、小学生 の皆さんにもベンチプレスを体験してもらうというカリキュラムを作った。



小学校の皆さんはどの学校でも、目を皿のようにして ビデオを見つめ、そして、ベンチプレスの体験会に参 加してくれた。

そんな小学校の体験会に参加していた生徒さんから、 感想文をいただいた。

「私は体育が苦手です。お母さんは才能がないのだから頑張らなくてもいいよ、と、言います。でも、私は、Yes I can と、何事にも挑戦していく障害者の人を見ていて、私ももう少し体育を頑張ってみようかな、と、思いました。」

小学校の体験会が、パワーリフティングの紹介にと どまらず、生徒さんの心に届いたようです。

※「You Tube チャンネル 4 Super Human」で検索してみてください。ドラムで始まるビデオです。

(事務局、吉田寿子)